

アイピーエム！？

みなさんは IPM という文字を目にしたことがあるでしょうか？

IPMとは「Integrated Pest Management」のことで、日本語では「総合的害虫管理」と訳されます。

耕種の分野では一般的に知られている技術で、農薬への過度の依存による農薬残留、薬剤抵抗性向上などの問題に対処するため、新たな害虫防除の指針として提案されました。その概要は、薬剤だけに頼らず天敵利用など様々な防除技術を組み合わせ、ある程度の経済的被害が生じるレベル以下に害虫を抑えることを目的とした環境に優しい技術です。

現在、畜産試験場では畜産農家で問題となっているイエバエの発生にこの IPM 技術を利用できないかと考え、ハエの発生源とされる畜ふんに生息するハエの天敵を調査し、天敵利用の有用性について検討しています。これまで、天敵としてはハエの卵、幼虫を捕食するガイマイゴミムシダマシ、クロチビエンマムシなどの昆虫が知られています。実際県内でもこのような昆虫の生息が確認され、これらが多く生息する農家においては秋のイエバエの発生も少ないという結果が得られました。今後は、これらを利用することで薬剤だけに頼らない防除システムの確立を目指していきます。



表：県内養鶏場における昆虫 ハエの発生量(平成 14 年 9 月)

(昆虫：個体数/ふん 3kg ハエ：個体数/日 トラップシート m²)

養鶏場	ふん生息昆虫 (成虫)		イエバエ (成虫)
	ガイマイゴミムシダマシ	クロチビエンマムシ	
A 農家	767.3	1477.0	1.5
B 農家	0	30.1	200.0

(畜産環境研究室 眞方優)



畜産試験場だより No.25

平成 16 年 2 月 1 日 発行

栃木県畜産試験場

〒321-3303

芳賀郡芳賀町稲毛田 1917

028-677-0301